

# 八月

葉月 はづき

## 「椰子の実」

島崎藤村作詞・大中寅二作曲

名も知らぬ 遠き島より

流れ寄る 椰子の実ひとつ

ふるさとの岸を 離れて

汝はそも 波に幾月

旧の木は 生いや茂れる

枝はなお 影をやなせる

われもまた 渚を枕

独身の 浮寝の旅ぞ

実をとりて 胸にあつれば

新たなり 流離の憂い

海の日の 沈むを見れば

激り落つ 異郷の涙

想いやる 八重の汐々

いずれの日にか 国に帰らん

明治三十一年夏、柳田國男が、愛知県伊良湖岬にひと月ほど滞在した時、親友の藤村に「椰子の実が、黒潮に乗って旅の果てに流れ着く」という話をした。藤村は、椰子の実の旅に故郷を離れてさまよう自分の姿を重ね、この詩を詠んだ。昭和十一年七月、作曲家の大寅二が曲を付ける。(参考資料 田原市観光ガイド・ほか)

日 月 火 水 木 金 土

1 八朔	2	3	4	5	6	7
8 立秋	9	10	11	12	13	14
初めて秋の気立つがゆへなれば也						
15	16	17	18	19	20	21
			弁当の日 10:00~15:00 アトリエにて	石釜の日 10:00~15:00 アトリエにて		
22 MORI・ねっと イベント 「工房夏祭」 ~木工教室~	23 処暑	24	25	26	27	28
	陽気とどまりて 初めて退きやまんとすれば也					
29	30	31				

今月の覚書き